



CHAPTER 10

ヘルス プローブを使用したヘルス モニタリングの設定

この章では、Cisco 4700 シリーズ Application Control Engine (ACE) アプライアンスでのヘルス プローブの設定方法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [概要](#)
- [Device Manager GUI を使用した HTTP ヘルス プローブの設定](#)
- [CLI を使用した HTTP ヘルス プローブの設定](#)

概要

この章を読むと、ACE アプライアンスが、ヘルス プローブを使用してサーバヘルス モニタリングをどのようにサポートするか、および HTTP ヘルス プローブの設定方法についての基礎を理解できます。

障害を検出し、信頼できるロード バランシング決定を行うには、ヘルス プローブ（キープアライブと呼ばれることもあります）を定期的に送信することで、サーバおよびサーバ ファームのヘルスを追跡するように ACE アプライアンスを設定できます。デフォルトでは、ACE は、サーバ障害を暗黙的にチェックします。

プローブを ACE で設定することで、アクティブな接続を確立して、トラフィックをサーバに明示的に送信することができます。ACE は、サーバの応答を評価して、そのサーバのヘルスを判別します。

ACE によるサーバのヘルスの判別結果は次のいずれかになります。

- **Passed** : サーバは有効な応答を返しました。
- **Failed** : サーバは、指定のリトライ回数内で ACE に有効な応答を返すことに失敗しました。

サーバがプローブの応答に失敗すると、ACE は、クライアントがそのサーバにアクセスできない原因となっているネットワーク問題が発生していないかチェックします。ACE は、サーバを非稼動状態にすることができます。

プローブは、TCP、UDP、ICMP、Telnet および HTTP など、数種類を使用できます。TCL スクリプト言語を使用して、スクリプト化されたプローブを設定することもできます。

プローブを設定するには、次のステップに従います。

ステップ 1 プローブを作成して、その名前、タイプ、アトリビュートを指定します。

ステップ 2 プローブに次のいずれかを割り当てます。

- 実サーバ。
- サーバ ファームに関連付けられている実サーバ。サーバ ファーム内の 1 台の実サーバには、単一または複数のプローブを割り当てることができます。
- サーバ ファーム。サーバ ファームのすべての実サーバは、プローブを受信します。

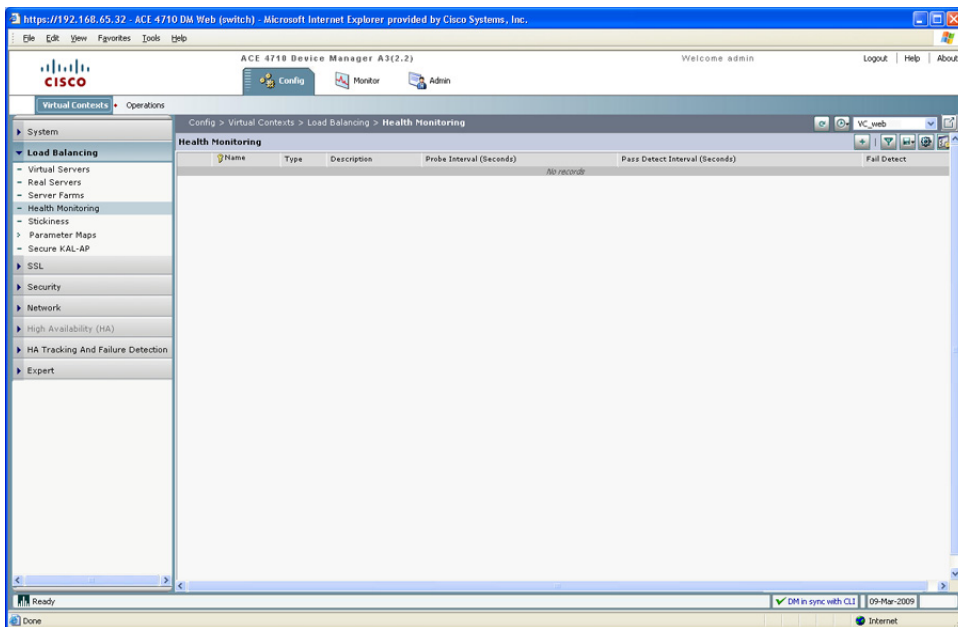
プローブは、ACE Device Manager GUI または Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) のいずれかを使用して設定できます。この章では、HTTP プローブの設定方法について説明します。その他のタイプのプローブを設定する方法については、『*Cisco 4700 Series Application Control Engine Appliance Server Load-Balancing Configuration Guide*』を参照してください。

Device Manager GUI を使用した HTTP ヘルス プローブの設定

次のステップに従い、ACE Device Manager GUI を使用して、HTTP ヘルス プローブを設定できます。

ステップ 1 [Load Balancing] > [Health Monitoring] を選択します。[Health Monitoring] ペインが表示されます (図 10-1)。

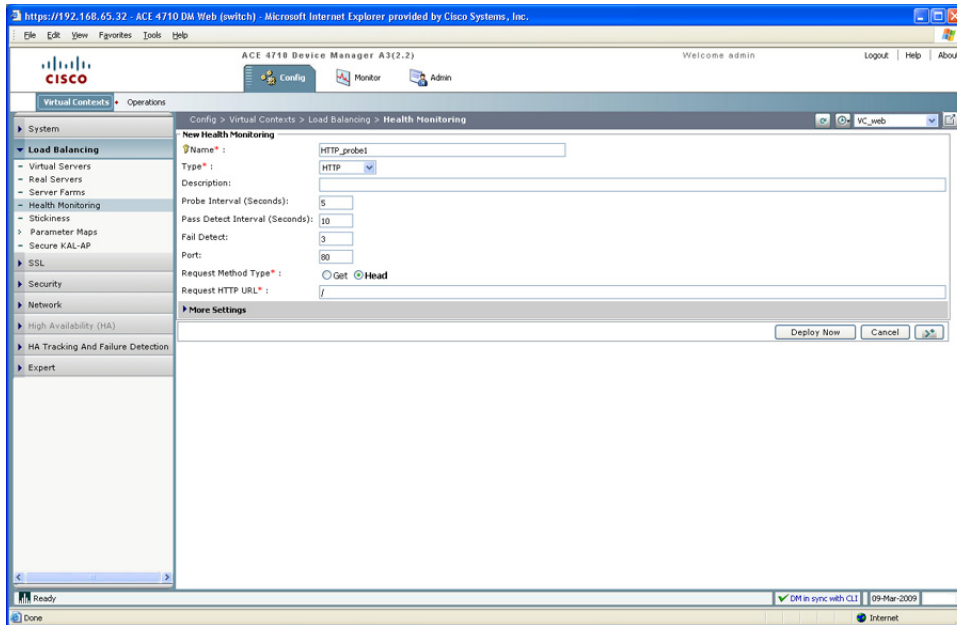
図 10-1 [Health Monitoring] ペイン



■ Device Manager GUI を使用した HTTP ヘルス プローブの設定

ステップ 2 [Add] をクリックして、新しいヘルス プローブを追加します。[Health Monitoring] ウィンドウが表示されます (図 10-2)。

図 10-2 [Health Monitoring] ウィンドウ



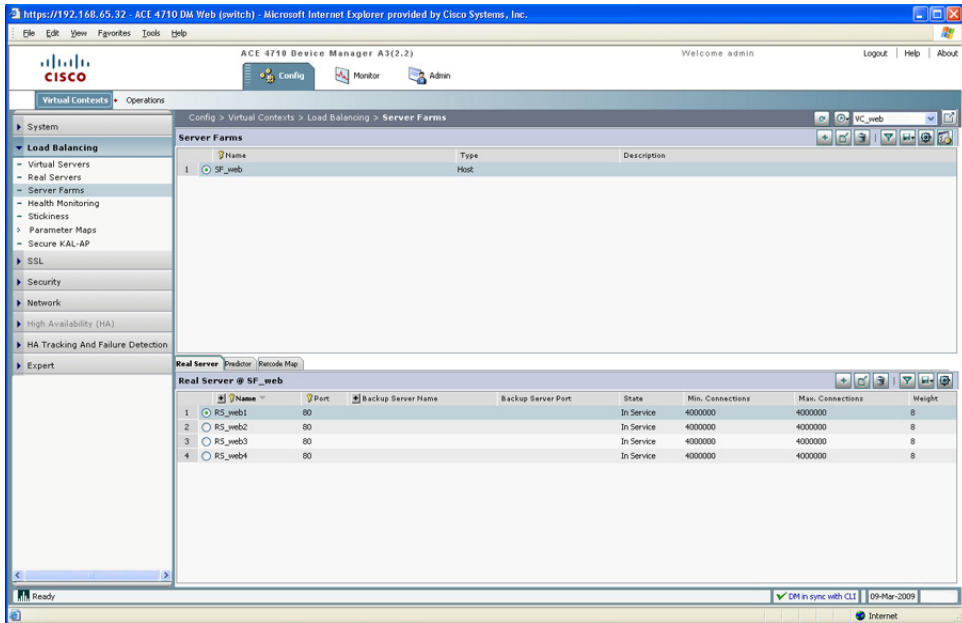
ステップ 3 次のヘルス プローブ アトリビュートを入力します。残りのアトリビュートは空白、またはデフォルト値のままにしておきます。

- [Name] : HTTP_probe1
- [Type] : HTTP
- [Probe Interval (Seconds)] : 5
- [Pass Detect Interval (Seconds)] : 10
- [Port] : 80

ステップ 4 [Deploy Now] をクリックして、この設定を ACE アプライアンスに適用します。

ステップ 5 [Load Balancing] > [Server Farms] を選択して、ヘルス プローブとサーバ ファームを関連付けます。[Server Farms] ペインが表示されます (図 10-3)。

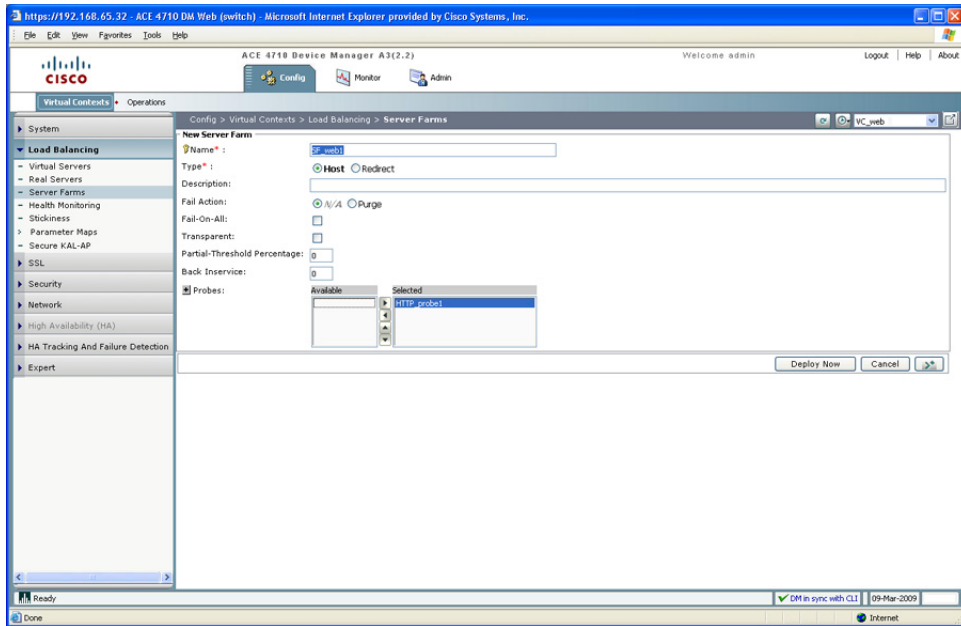
図 10-3 [Server Farms] ペイン



ステップ 6 サーバファーム [SF_web] を選択して、[Edit] をクリックします。[Server Farms] ウィンドウが表示されます (図 10-4)。

Device Manager GUI を使用した HTTP ヘルス プロープの設定

図 10-4 [Server Farms] ウィンドウ



ステップ 7 [Probes] の [Available] リストから [HTTP_probe1] を選択し、右矢印ボタンをクリックして、プローブを [Selected] リストに移動します。

ステップ 8 [Deploy Now] をクリックして、ヘルス プロープ HTTP_probe1 とサーバファーム SF_web を関連付けます。

CLI を使用した HTTP ヘルス プローブの設定

次のステップに従い、CLI を使用して、HTTP ヘルス プローブを設定します。

- ステップ 1** CLI プロンプトをチェックし、目的のコンテキストで操作が行われていることを確認します。必要に応じて、正しいコンテキストに変更します。

```
host1/Admin# changeto VC_web  
host1/VC_web#
```

- ステップ 2** 設定モードに入ります。

```
host1/VC_web# config  
host1/VC_web(config)#
```

- ステップ 3** HTTP_probe1 という名前の HTTP というプローブを定義して、設定モードにアクセスします。

```
host1/VC_web(config)# probe http HTTP_probe1  
host1/VC_web(config-probe-http)#
```

- ステップ 4** HTTP プローブにポート番号 80 を設定します。

```
host1/VC_web(config-probe-http)# port 80
```

- ステップ 5** プローブ間の間隔を 5 秒に設定します。

```
host1/VC_web(config-probe-http)# interval 5
```

- ステップ 6** 有効な検出間隔を 10 秒に設定します。この時間が経過すると、ACE は、Failed サーバに別のプローブを送信します。

```
host1/VC_web(config-probe-http)# passdetect interval 10
```

- ステップ 7** プローブ設定モードを終了します。

```
host1/VC_web(config-probe-http)# exit  
host1/VC_web(config)#
```

- ステップ 8** プローブ HTTP_probe1 とサーバファーム SF_web を関連付け、設定モードを終了します。

```
host1/VC_web(config)# serverfarm SF_web  
host1/VC_web(config-sfarm-host)# probe HTTP_probe1  
host1/VC_web(config-sfarm-host)# exit  
host1/VC_web(config)# exit  
host1/VC_web#
```

ステップ 9 HTTP プローブ設定を表示します。

```
host1/VC_web# show running-config probe
```

この章では、HTTP ヘルス プローブを設定しました。